

## 図書紹介

◎熱帯林の虫害 (Martin R. Speight & F. Ross Wylie 著, *Insect Pest in Tropical Forestry*. ix+307p. CABI Publishing, New York, 2001.) 7,500 円 (税別)

熱帯地域に限らず、単一樹種あるいは樹種構成の単純な林地は重大な病虫害の被害を招くことがおおく、その例は枚挙にいとまがない。

本書が取り扱っている熱帯の森林害虫に関してはいえば、近年、広範囲にわたって進行しつつある植林は、早成樹種、外来樹種、郷土樹種などのいかんを問わず、結果的には樹種構成の複雑だった森林(伐採跡地を含む)を単純なそれへと変えることにより、これまでごく普通の昆虫にすぎなかったものをいわゆる害虫へと転換させてしまう可能性を高めるが、このような実例は直ちにいくつも枚挙しうるのが現状である。

一方、新たな植林地の造成にあたっては、予想される加害害虫類の検討が不可欠であるにもかかわらず、一般には軽視されがちである。つまり、虫害問題が起こってからの方策よりはも、“潜在害虫”についての事前調査がきわめて重要なのだが、これは温帯地域での植林事業において多くの苦い経験を繰り返してきたことから明白であろう。

本書は 1. 熱帯林とは、2. 熱帯林と昆虫の多様性、3. 熱帯昆虫に及ぼす非生物的・生物的影響、4. 寄生樹木と昆虫の相互関係、5. 熱帯林の害虫-生物学・生態学・インパクト、6. 管理方式 I : 計画段階、7. 同 II : 苗畑段階、8. 同 III : 植林段階、9. 同 IV : 林地の健康度に関する監視と検疫、10. 総合防除の 10 章からなる。

5 章はおもな害虫を加害部別あるいは加害様式別に記述したもので、熱帯の林地で問題となっている害虫類の現況を概観するのに役立つ。しかし同時にさらなる情報の集積の必要なことを感じさせる部分でもある。たとえば、センダン科植物の重要害虫である *Hypsipyla* 属の昆虫(おもに新梢に穿入、内部を食害)に関し、40 年以上にわたる研究成果が必ずしも確実な防除技術に結びついていないのを見るときなど、この感が強い。最終章では、ブラジルのユーカリ造林地における食葉性鱗翅目昆虫、ベトナムと中国のタイワン・マツカレハ(マツ類の食葉性害虫)等々、6 つの具体例が挙げられている。類書がほとんどない現在、本書は貴重な 1 冊だと思われる。(小久保 醇)